

第6章 周辺の遺跡と遺物

1 はじめに

坂灘遺跡の周辺には、数多くの遺跡が知られている。これらの遺跡についてはすでに『仁摩町誌』^{註1}等に記述されたものもあるが、その後に発見されたものや未発表の資料もいくつか存在する。そこで、ここでは児島弘が採集した資料を中心に一部仁摩町教育委員会で保管されている資料も含めて簡単に紹介しておくことにする。

2 遺跡・遺物の概要

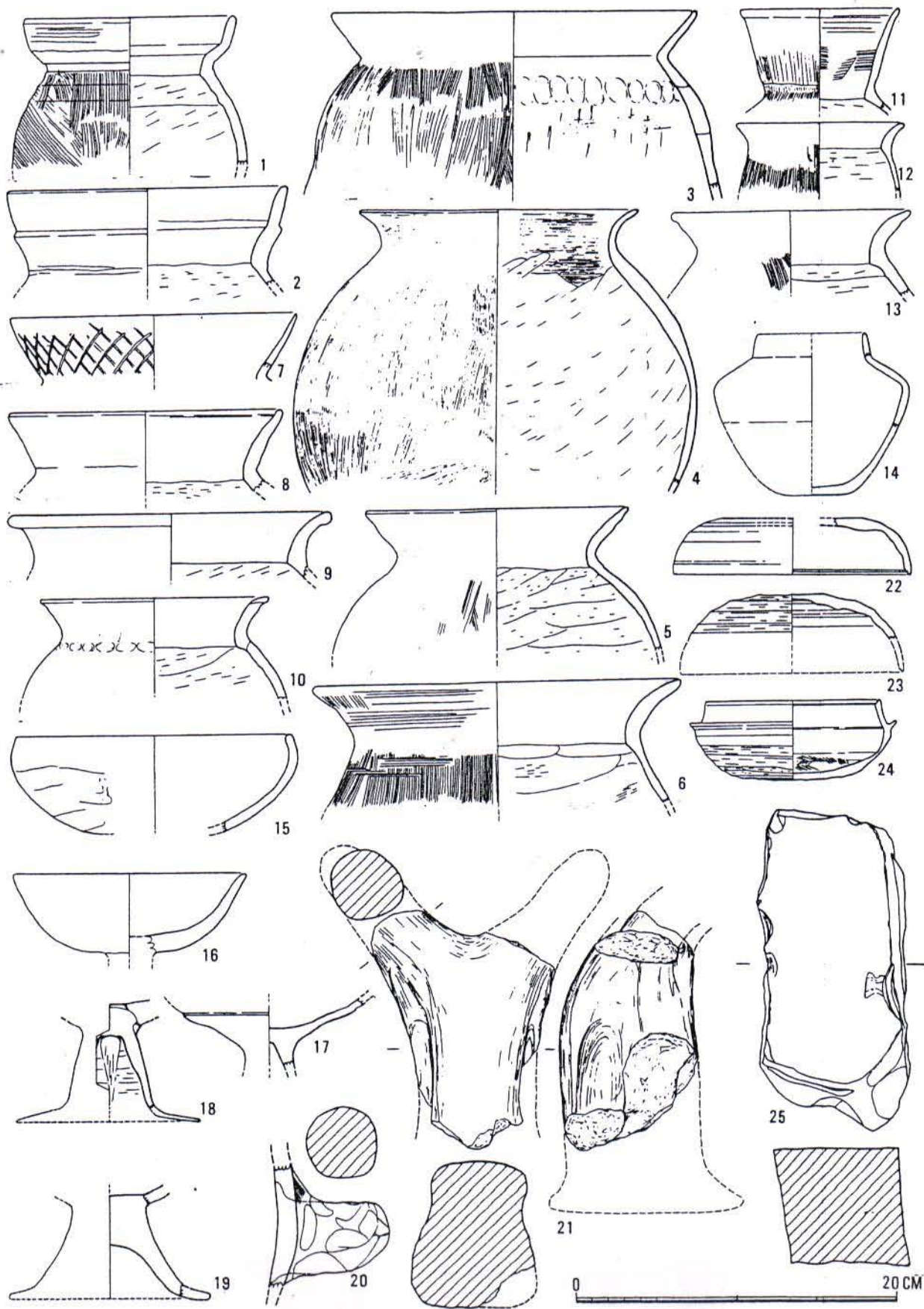
^{もうき}猛鬼遺跡

遼摩郡仁摩町大字宅野町字猛鬼

宅野港から旧道沿いに北東方向に約1.2km進み、そこから山道を北に行くと海岸に出る。幅200mあまりの小さな湾があり、その南西隅から遺物が採集されている。昭和50年、土砂崩れの際に遺物が出土したもので、出土品は町教育委員会で保管されている。出土地周辺にはまとまった平地はみられないが、狭小な階段状につくられた水田がわずかに存在する。

出土品のうち図示し得たものは25点である（第34図）。この内訳は土師器19点、須恵器4点、土製支脚1点、砥石1点である。土師器は、直口壺1点、甕12点、高坏4点、坏1点、甑と思われる把手1点がある。甕は複合口縁を有するもの及びそれがかなり便化したと考えられるものが1点ずつあるが、その他はいずれも「く」の字状の口縁部を有するものである。高坏は、坏部に段を有するものと段のないものがある。須恵器は、短頸壺と蓋坏がある。蓋坏身は口径11.0cm、高さ5.0cmのやや小振りのもので、口縁部は長く垂直に近く立ち上り、端部は段を有す。また外面の下半はていねいな回転ヘラケズリがなされるなど、山陰須恵器編年^{註2}第Ⅰ期の特徴をそなえたものといえる。蓋坏蓋には口径14.8cmのやや大振りのものであり、口唇部に段を有するものの全体の器形などから山陰須恵器編年第Ⅱ期に属するものと思われる。

当遺跡ではあまり時期幅のある遺物は出土しておらず、概ね須恵器編年Ⅰ・Ⅱ期の範疇におさまるものばかりと考えられる。出土品のなかに土製支脚、砥石や甑と考えられるものを含むなど集落跡と思われるが、付近に耕作適地が認められないことから農耕以外の生業を考慮すべきであろう。



第34图 猛鬼遺跡出土遺物実測図

周辺遺跡出土遺物観察表
猛鬼遺跡出土遺物観察表

挿図 番号	器種	法量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
		口径	底径	器高					
34-1	甕	(12.8)			複合口縁で、口縁部は外傾して立ち上る。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面は粗いハケメ調整。内面頸部以下はヘラケズリ。	暗いオリブ灰色	1~3mm大の砂粒を含む。	やや軟質な焼きあがり。	昭和50土師器
2	甕	(17.0)			口縁部は内外面ともにヨコナデ。内面頸部以下はヘラケズリ。	外面は明褐色 内面は暗褐色	石英等の小砂粒を含む	良好	土師器
3	甕	(22.6)			口縁部は「く」の字状を呈し、端部はややふくらんで丸くなる。口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面はタテ方向のハケメ調整。内面頸部~肩部に指頭圧痕がみられ、その下はヘラケズリ。外面に煤が付着。	淡あずき色	1~2mm大の砂粒を含む。	良好	土師器
4	甕	(17.2)			口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面は幅の狭いハケメ調整が薄くみられる。内面頸部以下はヘラケズリ。外面に煤が付着。	暗赤褐色	大粒の石英等の砂粒を多く含む。	良好	土師器
5	甕	(16.2)			口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面は部分的にハケメ痕がみえる。内面頸部以下はヘラケズリ。外面の全面に煤が付着。	黄褐色~暗茶褐色	長石・石英等の小砂粒を含む。	良好	土師器
6	甕	(22.7)			口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面はタテ方向のハケメ調整。内面頸部以下はヘラケズリ。外面に煤が付着。	黄灰色	砂粒を含まない。	良好	土師器
7	甕	(17.5)			口縁部残片であるが、シャープなつくり。内外面ともにヨコナデであるが、外面はそのあと暗文状のヘラミガキを斜格子状に施している。外面に煤が付着。	黄褐色~茶褐色	長石、石英等の小砂粒を含む。	良好	土師器
8	甕	(16.6)			口縁部は内外面ともにヨコナデ。内面頸部以下はヘラケズリ。外面のほぼ全面に煤が付着。内面にも煤が付着。	暗褐色	長石、石英等の砂粒を含む。	良好	土師器
9	甕	(19.8)			口縁部は内外面ともにヨコナデ。内面頸部以下はヘラケズリ。	暗赤色	1mm大の砂粒を含む。	良好	土師器
10	甕	(13.9)			口縁部は内外面ともにいていねいなヨコナデ。外面頸部は指頭圧痕がめぐる。胴部はナデ。内面頸部以下はヘラケズリ。	灰白色	1mm大の砂粒を少量含む。	比較的 良好	土師器
11	壺	(10.0)			口縁部上半は内外面ともにヨコナデ。口縁部下半~頸部は粗いハケメ調整。内面頸部以下はヘラケズリ。	黄白色	緻密で砂粒を含まない。	やや軟質な焼きあがり。	土師器
12	甕	(10.5)			口縁部内外面ともにヨコナデ。胴部外面は細かいハケメ調整。内面頸部以下はヘラケズリ。外面頸部より上に炭化物が付着。	明黄白色	1mm大の砂粒を含む。	比較的 良好	土師器
13	甕	(14.8)			口縁部は内外面ともにヨコナデ。胴部外面はハケメ調整。内面頸部以下はヘラケズリ。	灰褐色	砂粒はほとんど含まない。	良好	土師器
14	壺	(7.0)			頸部から肩部にかけての残片。肩部は大きく張り出す。内外面ともにロクロナデ。	明灰色	細かく精選されている。	良好で堅い焼きあがり。	須恵器
15	坏	(16.9)		(6.2)	口縁部はヨコナデ。外面はナデと思われる。内面はナデかミガキと思われるが表面剥離しているため不明瞭。	外面は明茶色 内面は橙色	砂粒を含まない。	きわめて軟質	土師器

挿図 番号	器種	法 量 (cm)			形 態・手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
		口径	底径	器高					
34-16	高坏	(14.2)			坏部の残片。器面の風化が著しく不明瞭であるが、ナデ調整と思われる。	赤褐色	細かく均一	良 好	土師器
17	高坏				坏部に段を有す。坏部は内外面ともにヘラミガキ。	赤褐色	細かく均一	良 好	土師器
18	高坏				坏部内面はヘラミガキ。脚部内面はヘラケズリ。	明赤黄色	砂粒は含まない。	比較的良 好	土師器
19	高坏				坏部内面はヘラミガキ。脚部内面は指先によるナデ調整。	明赤黄色	砂粒は含まない。	比較的良 好	土師器
20					甑形土器の把手と思われる。胴部と把手の接合部はハケメ調整。把手の部分は指による整形。外面に煤が付着。	明黄赤色	2mm大の砂粒を含む。	良 好	土師器
21	土製支脚				胴部断面形が通常の円形ではない。外面に煤が付着。	明褐色	石英等の砂粒を多く含む。	良 好	土師質
22	蓋坏	(14.8)		3.5	口唇部に段を有す。内外面ともロクロナデ。天井部外面は回転ヘラケズリ。	明青灰色		良 好	須恵器
23	蓋坏	(14.0)		(4.8)	内外面ともにロクロナデ。天井部外面は顕著な回転ヘラケズリ。	青灰色		良 好	須恵器
24	蓋坏	11.0		5.0	口唇部に段を有す。内外面ともにロクロナデ。外面下半はていねいな回転ヘラケズリ。	暗灰色	砂粒を含まない。	良 好	須恵器